

もの言う牧師のエッセー 第169話

「アサッテ君」

全国紙で最長を誇る連載漫画「アサッテ君」が、13749回目にあたる昨年12月31日付朝刊分を最後に幕を閉じた。現在77歳で同漫画の作者である東海林さだおさんは、40年余り続けた連載を「よくやってきたな」と感慨深げに振り返る。毎日新聞の他に週刊誌3誌、月刊誌1誌の連載のほかに、飛び込みの仕事を入れて月に約50本の締め切りを抱え、1日のスケジュールは5分刻みで考えるという生活。

「朝少し食べて昼食を取る間もなく40年やって来ました。」と言うからストレスも相当だったはずだ。「この生活はいずれ破綻するかと、ずーっと思っていたけど、もってしまいました」と笑う彼。しかし連載中、病気で休載したことはなく何十年も風邪一つひいていないというから不思議だ。と、同時に「本当に身動きがとれなかった。」とも語る東海林さんを見て、思わず聖書の言葉

「あなたの神、主は、あなたのしたすべてのことを祝福し、あなたの、この広大な荒野の旅を見守ってくださったのだ。あなたの神、主は、この四十年の間あなたとともにおられ、あなたは、何一つ欠けたものはなかった。」申命記2章7節

を思い出した。これは、今から約3500年前、神に選ばれたはずのイスラエルの民が神に逆らった結果、ペナルティとして40年間に渡って荒野を彷徨った後に、神からいただいた祝福のメッセージである。彼らのうち誰もが、40年間身動きがとれず、「いずれ破綻する」と思っていたに違いないが、彼らは生き延び、ついに乳と蜜の流れる豊かな地を相続したのである。クリスチャンになっても苦勞が絶えない人は多い。しかし神を信頼して耐え忍び、後になって振り返った時、「よくやってきた」と感慨に浸れるのではなかろうか。今日もまたバタバタと忙しいが、キリストを信頼しつつ地道に歩んで行く。

2015-1-30

